

県境を越えた「広域連携」による まち・ひと・しごとの好循環づくり

鳥取・島根
中海・宍道湖・大山圏域



山陰と山陽・四国をつなぐルート



日本海側の陸・海・空の重要な戦略拠点

①日本海側の主要都市圏で、新潟、金沢に次ぐ第3位の人口集積 (約 66 万人)



②住みやすさ日本一の地域

経産省が試算した日本一住みやすい圏域!!

※30代郊外農村志向で、1位松江市、2位出雲市、4位米子市、7位安来市、13位境港市
※30代利便性志向で、1位米子市

国内トップレベルの医療・介護体制!!

日本創成会議が発表した医療・介護体制があるとする41地域に松江、米子医療圏が選出 (出雲も含めた圏域が国内トップレベル)
施設や医師の集積 (10万人当たりの医師数、病床数) は、全国的に高水準の鳥取大学医学部附属病院 (米子市)、島根大学医学部附属病院 (出雲市)、島根県立中央病院 (出雲市)、松江赤十字病院 (松江市) など

全国1位!

環日本海経済交流活動の窓口



◇ 韓国・ロシアを結ぶ定期貨客船が就航する「境港」
◇ 韓国ソウルとの定期便を持つ「米子鬼太郎空港」

位置づけとねらい

県境を越えた広域連携

- 日本海側を代表する拠点
- 北東アジアのゲートウェイ
- 山陰地方の人口流出のダム効果



基本目標

圏域人口 60 万人の維持

- 産業集積による仕事・雇用の創出
- 地域資源（ヒト・モノ）の発掘と磨き上げ、そして国内外への発信
- 世界に誇れる歴史・文化のさらなる活用

目標の実現に向けた施策

①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

- 北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
 - ・空と海の定期航路（空：米子～ソウル、海：境港～東海～ウラジオストク）の活用
 - ・日本海側の物流拠点境港のさらなる整備と一層の利用拡大
 - ※中国やまなみ街道、瀬戸内しまなみ海道、米子自動車道・岡山自動車道・瀬戸中央自動車道を活用して、関西、山陽、四国から境港を介して海外への物流
- 圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出
 - ・ODAを活用した経済協力
 - ・松江発のプログラミング言語Rubyを介した、SE人材の育成・確保
 - ・インドにおける日本語教育推進への協力
- 圏域の特長を活かした企業や研究機関の誘致
 - ・安来の特殊鋼技術を活かした金属関連製造業、境港の水産加工業、松江のIT産業、米子の医療、出雲の電子部品をはじめとする製造業、大山の農畜産業
- インバウンド観光の推進
 - ・山陽、四国との広域観光ルートの形成
 - ・大型クルーズ客船の寄港促進
 - ・Wi-Fi環境、サイン、免税店、カード対応などの受け入れ基盤の整備
 - ・オリンピック開催を契機とした欧米向けの対応
- 地域資源の発掘
 - ・「山陰いいものマルシェ」の定期的開催（JR西日本や圏域経済界と連携、隠れた良いものの発掘～販売促進）
 - ・神話や歴史、民俗に関する国の研究機関の誘致

- ・高等教育機関との連携
- 圏域への移住・定住の促進
 - ・Iターン、Uターンの推進
 - ・CCRCの検討

②交通ネットワークの充実

- 5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成
 - ・物流拠点境港の利便性向上（RORO船の寄港）
 - ・圏域内外のヒトとモノの移動や流通の一層の利便性向上（中海架橋、米子市～境港間的高速道路などの道路ネットワーク、境港出雲道路、江府三次道路、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化などの早期実現）
 - ・圏域の距離と時間の短縮

③住みたくなる圏域づくり

- 自然環境の保全と活用
 - ・EVを活用したまちづくり
 - ・中海・宍道湖・大山を活用した交流人口の拡大

④住民サービスの向上

- 「公共交通の利便性向上」「人材育成の共同化」「公共施設の共同利用」の推進

「中海・宍道湖・大山ブロック経済協議」「中海・宍道湖・大山圏域市長会」意見交換会 資料

中海・宍道湖・大山圏域市長会 第1期(H27~31) 地方版総合戦略における施策・成果 <途中経過H27年度~30年度>

総合戦略			具体的な施策・事業名 (Do)	主な成果 (Check) ※含、関係機関、団体との連携事業	
4つの柱	中項目	小項目 (Plan)			
①国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成	(1)北東アジアに向けたゲートウェイ機能のさらなる活用	海と空の定期航路(空:米子~ソウル、海:境港~東海~ウラジオストク)の活用	<ul style="list-style-type: none"> ロシアへの販路拡大支援事業 定期貨客船航路就航支援補助金 香港向け観光プロモーション、テレビ番組の制作、放送 	<ul style="list-style-type: none"> ロシアバイヤーとの商談会:15社参加のうち5社で商談成立(H27) ロシア現地のアンテナショップにおいて圏域商品の販売・観光PRコーナーの設置(H28) 米子香港便の新規就航(H28.9) H30年度乗客数約3.1万人 利用率約73% 米子ソウル便の増便(週3便→週6便) H30年度乗客数約7.3万人 利用率約73% DBSクルーズフェリーの継続運航(H21.6~) H30乗客数約2.8万人(過去3番目) 就航以来乗客数約25.8万人、H30コンテナ貨物量509TEU 	
		日本海側の物流拠点境港のさらなる整備と一層の利用拡大	<ul style="list-style-type: none"> 海外商談会参加等支援事業 境港利用促進懇談会・研修会の開催 港湾整備関係要望活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 海外商談会参加等支援事業(H27:5件 H28:13件 H29:15件 H30:5件) 境港中野地区国際物流ターミナル供用開始(H28.9~) 国際旅客ターミナル2020年春完成予定(5市による要望活動の実施) 定期コンテナ航路週7便化(H31.4~) 	
	(2)圏域企業の海外進出支援のための官民挙げた「インド」進出	ODAを活用した経済協力	<ul style="list-style-type: none"> インドとの経済交流事業 	<ul style="list-style-type: none"> 5市長インド・ケララ州訪問による経済交流に関するMOUの締結(H27.12) ODAを活用した経済協力(松江土建(株)、三光(株)、大成工業(株)、(株)アルファ食品) 	
		松江発のプログラミング言語Rubyを介した、SE人材の育成・確保		<ul style="list-style-type: none"> 5人が圏域内企業に就職 圏域内企業がケララ州企業との業務連携締結1件 留学生インターンシップの実施(H31.3 7社で14人受入) 	
	(3)圏域の特徴を活かした企業や研究機関の誘致	安来の特殊鋼技術を活かした金属関連製造業、境港の水産加工業、松江のIT産業、米子の医療、出雲の電子部品をはじめとする製造業、大山の農畜産業	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内企業のビジネスマッチングの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 圏域内企業情報データベースの充実 登録企業568社 月平均アクセス数約4万件 ビジネスマッチングでの商談件数(H27:528件 H28:456件 H29:711件 H30:651件) H30商談成立・成立見込件数94件 	
		山陽、四国との広域観光ルートの形成	<ul style="list-style-type: none"> 中国やまなみ街道全線開通に係る山陽、四国方面への観光プロモーション 中国やまなみ街道沿いの道の駅でのPR活動 	<ul style="list-style-type: none"> 観光入込数:(H27:28,488千人 H28:28,266千人 H29:27,745千人 H30:●●千人) 宿泊者数:(H27:4,067千人 H28:4,160千人 H29:4,214千人 H30:●●千人) 中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構の設立(H29.7) →(一社)中海・宍道湖・大山圏域観光局の設立(H31.4) 	
	(4)インバウンド観光の推進	大型クルーズ客船の寄港促進	<ul style="list-style-type: none"> クルーズ客船寄港時おもてなし事業 ボランティアガイドによる観光案内業務 岸壁におけるお土産・飲食観光案内ブースの設置 	<ul style="list-style-type: none"> クルーズ客船寄港の増加(H27:23回/19,429人 H28:33回/39,589人 H29:61回/66,477人 H30:37回/61,148人) 境港がポートオブザイヤーを受賞 外国語ボランティアガイドの体制構築 	
		Wi-Fi環境、サイン、免税店、カード対応などの受け入れ基盤の整備	<ul style="list-style-type: none"> 圏域インバウンド対策推進事業 AR観光アプリの導入 国別訪日外国人対応マニュアル作成 	<ul style="list-style-type: none"> 外国人宿泊客数の増加(H27:85,235人 H28:93,543人 H29:117,397人 H30:●●人) 	
		オリンピック開催を契機とした欧米向けの対応	<ul style="list-style-type: none"> ジャパンガイドを活用した圏域観光プロモーション 		
			<ul style="list-style-type: none"> 圏域プロモーションCM作成、中京圏での放送 静岡県への観光プロモーション 仙台への観光プロモーション 	<ul style="list-style-type: none"> FDA出雲-仙台、静岡便の新規就航(H30.4) H30年度乗客数(静岡便)約3.9万人 利用率約70% (仙台便)約3.7万人 利用率約71% 	
	(5)地域資源の発掘	「山陰いいものマルシェ」の定期開催(JR西日本や圏域経済界と連携、隠れた良いものの発掘-販売促進)	<ul style="list-style-type: none"> 山陰いいものマルシェの開催 圏域外マルシェの開催 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰いいものマルシェ(5市で開催 H27~H29来場者計101千人、参加店舗延べ351店舗)(H30:来場者24千人、参加店舗58店舗) H29からマッチング商談会の開催:H29商談件数60件、H30商談件数90件 圏域外マルシェ(H27:6か所64店舗 H28:3か所31店舗 H29:2か所24店舗 H30:1か所14店舗) 	
		神話や歴史、民俗に関する国の研究機関の誘致	未	<ul style="list-style-type: none"> 「島根半島・宍道湖中海ジオパーク」日本ジオパーク認定(H29.12) 	
		高等教育機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> 産学・医工連携事業 	<ul style="list-style-type: none"> 産官学による医工連携事業の実施(H28~) H29:医療機器実用化1件 相談件数78件 マッチング件数0件 H30:医療機器実用化0件 相談件数101件 マッチング件数12件 賛助会員数:53社 	
	(6)圏域への移住・定住の促進	Iターン、Uターンの推進	<ul style="list-style-type: none"> 島根大学との若者を共に育てるプロジェクトの実施 		
		CCRCの検討	未		
	②交通ネットワークの充実	(1)5市を2つの湖を介して結ぶ「8の字ルート」の早期完成	物流拠点境港の利便性向上(RORO船の寄港)	<ul style="list-style-type: none"> RORO船トライアル輸送 	<ul style="list-style-type: none"> 境港流通プラットホーム協議会による国内定期航路の開通に向けたRORO船のトライアル輸送の実施(H28~)
			圏域内外のヒトとモノの移動や流通の一層の利便性向上(中海架橋、米子市~境港間の高速道路などの道路ネットワーク、境港出雲道路、江府三次道路、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化などの早期実現)	<ul style="list-style-type: none"> 米子道ほか道路関係要望活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 一部付加車線整備着工(米子道) 中国横断新幹線(伯備新幹線)中海・宍道湖・大山圏域整備推進会議設立準備会の設立(H30.10) →中国横断新幹線(伯備新幹線)整備推進会議設立(R元.5) 圏域消費地調査の実施(中経連 H29)
			圏域の距離と時間の短縮	未	
	③住みたくなる圏域づくり	(1)自然環境の保全と活用	EVを活用したまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> EVドライブガイド作成 	<ul style="list-style-type: none"> 急速充電器設備箇所数の増加(H24:21か所 H29:69か所)
			中海・宍道湖・大山を活用した交流人口の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 小学生を対象とした環境体験学習 中海・宍道湖レガッタの開催 中海・宍道湖水鳥フォトコンテストの開催 ラムサール条約登録10周年記念事業(H27) ラムサールシンポジウム2016 IN中海・宍道湖の開催(H28) 	<ul style="list-style-type: none"> 大山隠岐国立公園がナショナルパーク候補地に選定(H29.7) 国立公園満喫プロジェクトスタート 子ども探検クルーズ(毎年約100人参加)、スタンプラリー等による交流人口の拡大 中海・宍道湖レガッタ(毎年約50クルー参加) 中海・宍道湖水鳥フォトコンテスト(5市巡回展示、施設等への貸し出し展示に活用) ラムサールシンポジウム2016 IN中海・宍道湖(全国からの参加者約200人)
④住民サービスの向上	(1)「公共交通の利便性向上」、「人材育成の共同化」、「公共施設の共同利用」の推進	<ul style="list-style-type: none"> 交通ICカード導入調査事業 山陰まんなか未来創造塾開催(官民共同) 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰まんなか未来創造塾(H28受講者:31事業所46人 H29受講者:25事業所41人、H30受講者:27事業所41人) 福島大学等による圏域における二次交通の利便性向上に関する調査 		